

《非公表プログラムの事例》

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

③キャリアパス形成を支援するための体制整備や、社会的・職業的自立に向けた情報提供

●事例3

(具体的に何を実施したのか)

単位化された科目による長期インターンシップを始め、短期・中期・長期のインターンシップを実施し、学生に、産業界での研究・技術開発の実態を自分の目で直接確認してもらうことに役立てた。また、卒業・修了後の進路を産業界に取る学生が多いことを勘案し、大学の同窓会の協力を得て、産業界にいるOBとの接触の機会を増やすための交流会やシンポジウムを実施した。ならびに、企業人を多数招いて会社の紹介を行うフォーラムの開催などを実施した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

特に大きな問題は無かったが、リーマンショックによる突然の不況到来以降、産業界の採用人数の揺らぎが大きくなり、これへの対応に苦慮するようになった。また、フォーラムでは、90社以上の会社に参加していただいているが、学生は、大企業やマスコミでの知名度の高い企業志向が強く、知名度が低い、あるいは会社の規模が小さくても技術レベルや経営状況の良い会社への関心が低い傾向にある。支援する部署を設置して、就職指導教員による学生個別の指導機会を増やし、学生の意識改変に向けて努力している。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

就職指導に関しては、最近のインターネット上での情報流通が頻繁になり、その中には間違った情報も多いので、学生にとっては混乱をきたしやすい環境が出来上がっている。この種の問題は、全世界的な大きな問題で、現代社会全体が抱える課題であり、一朝一夕には解決できない。就職問題に限って、これを緩和するには、これまでの取り組みを強化して、学生に対して産業界の確かな情報を伝えることが必要である。